多くの方々の参加を期待いたします

商学部長　桜本　光

ごあいさつ

現代社会の変化の速さとその激しさには目を見はらせるものがあり、しかもその行く末を見極めることがきわめて困難な状況にあります。そうした環境の中で、高等教育を求めて厳しい受験競争を勝ち抜いて慶應義塾大学に入学してきた学生の中には、塾における生活環境の著しい相違もあって、自らの進むべき道を見つけるのにしばしば困難を感じるものもないわけではありません。彼らの中には、自分達の狭い興味の枠内にのみとどまって、いたずらに時間を費やしたり、またたとえ知的好奇心に導かれて教科内容の理解に努めても、学んでいる知識内容と現実の社会で生起している出来事や諸問題との関連を見出すことができずに悩んでいるものも少なくありません。彼らの多くは、大学生活で接する様々な知識領域それ自体が、学年が進むにつれてますます細分化し高度化していくことに戸惑いを感じているようにも見受けられます。

社会の変化にも対応しこうした状況を改善するべく、これまでもカリキュラムの抜本的改革を通して、学生の自主性を引き出す試みを様々に展開してまいりましたが、問題の根本が大学で学ぶ理論と自らの社会体験不足からくる不一致に起因するところが大きいように思われます。かかる事態を克服し、社会に占める自らの位置を確認させるために、社会との関わりの中から大学における教育内容と現実問題との関連を自覚的に把握できる機会を新たに提供しようと考えるに至りました。本来優れた素質に恵まれている彼らが、自らの社会における位置と能力を確認しながら勉学に取り組む姿勢を作り上げる一助になればと期待しております。

慶應義塾大学商学部は2007年に創立50周年を迎えます。翌2008年は慶應義塾大学創立150周年です。記念すべき節目を迎えるにあたり、福澤諭吉の「実学精神」の継承の重要さを改めて感じております。それと同時に、時代を先導するリーダーに求められる資質や能力も時代とともに大きく変容を遂げたと実感しております。義塾の伝統・精神を活かして時代を先んじる人間を育成するためには、この両者に橋渡しをするための研修先のご協力が必要です。ぜひ多くの方々の参加を期待いたします。

趣旨

学生に現実の業務を体験させるという実施形態こそは、近年注目されている「ビジネスインターンシップ」と類似しておりますが、当学部が設置する「社会との対話」は以下の点が異なっています。

一点目は、研修先を営利企業に限定していないことです。これまで商学部の学生は、どちらかといえば、社会的に名の通った大手の企業に対して強い志向を示してきましたが、最近では、創造性に富むベンチャー企業、さらには非営利組織やボランティア団体の活動にも関心を向けてきております。「社会との対話」という科目は、これらの関心にも積極的に応えようとするものです。

二点目は、二年生の夏休みに研修するということです。「ビジネスインターンシップ」がもつ、就職の適性を確認するという機能も重要ですが、それだけではなくて、自己の将来像の一つを学生時代の早期に経験させる良質な機会を提供することによって、その後の学生生活の改善、目的意識の明確化、勉学意欲の拡大などにつながるものと期待しております。

三点目は、商学部のスタッフが積極的にこの科目の実施にコミットすることです。研修プログラムの詳細の決定、研修先の訪問、学生の事前教育、学内最終報告会でのコメント、研修先との懇談など、教員と学生、研修先（その背景にある社会）との「対話」を通じて、この科目、さらには大学教育の質の改善へとつなげていきたいと考えております。

実学を重視する慶應義塾大学にあって、商学部はより実学に近い学問分野を教育しているという強みを持っています。この科目を教育の一貫として取り入れることは、商学部の理念とも一致し、極めて有意義であると考えられます。

想定される研修先

慶應義塾大学商学部の「社会との対話」では、研修先を民間企業に限定しておりません。商学部の学生の目が届きにくい地方の中小企業や地方自治体、またNGO、NPOなど社会に広く受け入れ先を求めていきます。最終的な決定は商学部が行いますが、原則として以下の条件を満たしていただきたいと思います。

（1）「社会との対話」の設置趣旨に沿った研修が可能であること。

（2）大学と共同で以下のような研修プログラムを作成できること。
創造性を涵養できる、もしくはそのきっかけとなる（自分で思考する機会を与える）研修内容とする。
見学だけでなく、自社の抱えている問題を考えさせる（アルバイト的ではない問題について）。
結果を社内で報告させる。

（3）研修中に生じた問題について責任をもって対応できること。

（4）下記の業務を負担できること。
事前の研修、業務分野（そのために学生に必要な知識）をマッチング前に明確化できる。
研修中の指導。
研修学生についての評価。
報告書のチェック。

研修内容

●研修1日目
オリエンテーション
企業・組織の概要説明、社内見学
研修のテーマ・業務の説明
・そのテーマ・業務の社会的位置づけの説明
・利用可能な情報の提供
・必要ならば基礎的研修の実施

●2日目以降　研修の実施

●6日目午前　中間報告
それまでの研修内容を報告。

●10日目（最終日）
社内プレゼンテーション
活動内容、テーマについてレポートを作成させ、プレゼンテーションさせる。

実施スケジュール

2007年度は次のスケジュールで実行する予定です。学生は授業への出席の他、企業・機関での研修、3回のレポート、学内での最終報告を行うことになります。

時　期	概　要
1～2月	・研修先・研修テーマの確定
4月	・キックオフ:大学側から学生への主旨説明 ・履修者の募集。定員超過の場合には選考します。
5月	・研修先の紹介（授業担当教員による） ・（学生）志望企業の決定と申告用紙（志望動機など）提出
6月	・学生と研修先のマッチング（レポート内容や研修内容などを勘案して大学が行います） ・事前教育
7月	・第一回レポート提出（研修先企業、業界などについて）
夏季休暇中	・企業・機関での研修
9月	・第二回レポート提出（研修内容について）
10～11月	・事後教育（研修学生による報告会） ・最終論文提出。論文は製本して公開します。
12月	・最終報告会および研修先との懇談会（次年度への改善に向けた意見交換）

●設置学年　2年生
●単位数　4単位
●学生への報酬　無給
●研修時期・期間　2007年の夏季休暇中の2～3週間
●実施規模　履修学生30名程度。研修先約30社・機関を予定。（2006年度実施：履修学生34名。研修先27社・機関）。

学生に望まれる事項

必ずしも特定の分野のスキルをもつことを前提とはしませんが、ある意味で商学部を代表して派遣されることになります。それにふさわしい能力、熱意、魅力をもっている学生である必要があります。

なお、希望者多数の場合には選抜を行います。また、電子メール等の通信手段、基本的なパソコンソフトに習熟していることが望まれます。

その他

研修学生はインターンシップ保険に加入します。（学生の自己負担3500円程度/年）。

研修先には連絡のための担当者を決定していただきます。

慶應義塾大学商学部は2007年に創立50周年を迎えます
表紙デザイン　2006年度履修生